

うきたむ

第55号

2020.7.1

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585
FAX 0238 - 52 - 4665
URL <http://ukitamu.pupu.jp/>



▲感染防止対策のされた受付

新型コロナウイルス禍と考古資料館の運営

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館長 渋谷 孝雄

令和二年三月二十八日、当館の設置者である山形県教育委員会から本日から閉館するようにと指示がありました。新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大防止のためということであり、全国的な風潮から、いずれ、その措置がとられるであろうことは予想されていきました。当館の催し物で最も多くの参加者がある「赤ちゃんの手形をつくろう」の五月連休中の開催はとても無理であろうと判断し、八月の盆前の開催に変更しましたが、五月中旬以降の体験や研修については三月の計画段階では開催が可能ではないかと考えていました。ところが、なかなか終息が見えないばかりか、四月に緊急事態宣言が発出され、県を跨ぐ移動も自粛となり、再開も憂慮されることになりました。県内の感染拡大が収まったと判断され五月一日には制限付き開館、六月一日からはサービスの拡大措置がとられ、六月一九日からは入館者名簿への記入も不要になるなど、徐々に制限が緩和されています。

ところが、今後の開館・運営には「新しい生活様式」で感染防止策をとる必要があります。本館の大きな柱である「体験」「講座」「研修会」ではどうしても三密を回避できないものもあり、苦慮しています。六月までの体験は中止としましたが、七月には完全予約制で「勾玉・弓矢をつくろう」を開催し、館長講座も一つの机に一人の間隔を2メートルあけて参加人数を二〇人に限定して開催することとしました。まだ、試行錯誤が続くかと思いますが、徐々に、平時に戻れればと思っています。

盆前に開催を予定している「赤ちゃんの手形をつくろう」は、まだ、クリアできない点もあり、現在も開催の方向で検討中です。

第28回企画展

「水木田遺跡と

縄文時代中期前半の山形」

令和元年9月14日(土)～12月1日(日)

第28回企画展は「水木

田遺跡と縄文時代中期前半の山形」と題し、重要文化財指定後に国庫補助を受けて行われていた保存修理事業が終了した土器を中心に展示いたします。

水木田遺跡は山形県最上郡最上町に所在し昭和五十三年に県営ほ場整備事業に伴い発掘調査が行われました。縄文時代中期前半の土器や石器が多数出土し、

ケ年をかけて保存修理事業が行われ、令和元年度で完了いたしました。今回の展示では縄文時代中期初頭から中期前半の県内の出土品が中心となります。

近年、大木7a式土器は東北の中期初頭ではなく、これを溯る土器の存在が明らかになりました。最初は天童市板橋1遺跡や高瀬山遺跡の中期初頭の土器と水木田遺跡や鶴岡市西向遺跡、舟形町西ノ前遺跡、村山市落合遺跡、米沢市台ノ上遺跡の大木7a式、五領ヶ台系の土器、北陸の新保式に併行する土器を展示します。

つぎは、水木田遺跡の中核をなす大木7b式及び、北東北の円筒下層b式、北陸の新崎式、東関東の阿玉台式等の併行する土器を展示します。展示する遺跡は右の遺跡に

酒田市飛島蔵山遺跡、新庄市中川原C遺跡、尾花沢市原の内A遺跡、長井市宮遺跡が加わります。土器の最後は水木田遺跡で最も新しい大木8a式期の土器群です。土器の大

形化、立体的な装飾が目立ちます。大木8a式が東北部で栄えていた頃、新潟県下では火焰土器が盛行しますが、県内で唯一形が分かる遊佐町柴燈林遺跡の馬高式土器も展示します。

この時期には土偶の出土量も増加します。水木田遺跡の重要文化財の土偶全点と中川原C、原の内A、落合遺跡など最上、村山地域の西ノ前形を中心とした土偶に加え、中期前半期から中葉にかけて大量の土偶が出土した台ノ上遺跡の土偶の変遷過程を展示します。

品も耳栓形耳飾り、滑車形耳飾り、三脚土製品等があり、石冠や三脚石器等の石製品もあります。台ノ上遺跡、南陽市長岡山遺跡、寒河江市谷沢遺跡で岩偶とされたものが

秋田県横手市で出土した石棒の一部であることが明らかになりましたので、水木田遺跡から出土した重要文化財の石器と共に、これらの資料も展示いたします。

今回の企画展では水木田遺跡の保存修理の終わった土器を中心に山形県の縄文時代中期前半に焦点を当て多様な資料を展示する予定です。是非御覧いただきたいと思



▲ 水木田遺跡出土土器

このうち、土器土製品136点と石器石製品194点の合計330点が平成二十三年に重要文化財に指定されました。指定品のうち土器22点について五

また、この時期の土製

よろしくお願いいたします



今年度 四月より三名の新職員が着任しました。
学芸員の菅原仁美に代わりまして松本恵美、事務
職員の片山眞尊と浅野美和に代わりまして、井上裕
史郎と菅野映子が着任しました。

今年度から当館の学芸員として着任しました松本
恵美と申します。大学では日本の古代史を勉強して
おり、考古学に関しては、ほとんど初めての経験ば
かりですが、しっかりと勉強して参りたいと思いま
す。よろしくお願ひします。

四月から事務職員として勤務しております井上裕
史郎と申します。趣味はスポーツで、小学校から高
校生まで野球をやっていました。若さを生かしたフ
ットワークの良さで明るく元気に仕事をしていき
たいと思います。

四月から事務職員として御世話になっております
菅野映子と申します。高島町生まれの高島町育ちで
す。長年、工場の事務員として働いてまいりました。
これまでの事務経験を生かして、早くて正確な仕事
に努めたいと思います。よろしくお願ひ致します。

今年度は、館長を含め職員五人の内、三人が新職
員となります。不慣れ事も多々あるかもしれませんが、
新たな気持ちで頑張つてまいりますので、よろ
しくお願ひ致します。



▲ 左から井上、菅野、松本

催し物のご案内

今後の催し物です。
興味のあるものがござ
いましたら、ぜひ足を
お運びください。

◇館長講座「小山崎遺跡
を知ろう」

7月5・19・26日(日)

◇勾玉・弓矢をつくろう

7月18日(土)

11月3日(祝)

◇第28回企画展

9月12日(土)

12月6日(日)

◇第22期考古学セミナー

9月27日(日)

10月11・18日(日)

◇企画展記念講演会

11月15日(日)

(情勢を鑑み、予定を変
更させていただきます場
合があります。詳細は
お問い合わせください。)

草木塔

米沢市を中心とした置賜地方全域 ● 江戸時代

皆さんは「草木塔」と刻まれた石碑を見たことがありませんか。草木塔は全国各地で見られ、江戸時代に作られたものが大多数です。9割が山形県にあり、特に置賜地方に集中しています。県内に169基、置賜地方に109基あると報告されており、内訳は米沢市43基、川西町22基、飯豊町22基、南陽市4基、高島町6基、白鷹町6基、長井市4基、小国町2基となっています。(2012年現在)

草木塔が作られた理由は、今でいう、林業に携わってきた人々の霊の供養のために建立されたものであるという説や、植物の供養の為に建立された石碑という説、植物の成長を願って建てられたものなど、諸説ありますが、未だにはつきりとは分かっていません。いずれにせよ、草木塔というものは、古来、植物に魂が宿ると信じられ、自然に親しみを持っていた、置賜の人たちの精神性を感じられるものであることは間違いないよう

です。置賜地方では、米沢市の田沢地区が草木塔発祥の地として有名であり、最古のもので、安永九(1780)年七月十九日に建立された、「塩地平の草木塔」があります。その他も合わせると、田沢地区には10基の江戸時代の草木塔が残っているそうです。

高島町の草木塔は、上和田地区に明治時代に建立されたと思われる草木塔などが確認されています。やはり、建立された理由は定かではありませんが、周辺集落の入会地にある山に関する取り決めがなされ、その際に建立されたものなのではないかなどといわれています。

近年、自然に対する関心も深まっていることもあり、平成に入ってから、草木塔は建立されています。当館に隣接する歴史公園にも、平成十年三月に建立された草木塔があります。当館の周辺にはたくさんの植物があります。自然豊かな環境の中、植物に思いを馳せてみるのも良いかもしれません。

「ナイフ形石器」は主に毛皮や肉、樹皮などを切るための加工具や、先端を尖らせて槍先などに、「エンドスクレイパー」は動物の裏側についた脂肪を掻き取る皮なめしの道具として、「彫刻刀形石器」は木や骨、角などを加工して道具を作るための工巧な石器として使われたと考えられています。当館ではこのほかにもさまざまな石器を展示しております。ぜひ足をお運びいただき、さまざまな石器の違いをご覧ください。

このように、県境近くに建立された

り、土地の取り決め



▲ 歴史公園の草木塔

我が館の展示品 (43)

後期旧時代後半期の石器

旧石器時代 ● 金山町 太郎水野2遺跡

当館のロビー展示の中に、金山町太郎水野2遺跡から出土した、後期旧石器時代後半期の主な石器である「ナイフ形石器」「エンドスクレイパー」「彫刻刀形石器」があります。

後期旧石器時代後半期には石刃技法の発展により石刃を大量に作る事ができるようになり、石刃にそれぞれ違った加工をすることで用途の違った石器を作り出す事ができるようになりました。

「ナイフ形石器」は主に毛皮や肉、樹皮などを切るための加工具や、先端を尖らせて槍先などに、「エンドスクレイパー」は動物の裏側についた脂肪を掻き取る皮なめしの道具として、「彫刻刀形石器」は木や骨、角などを加工して道具を作るための工巧な石器として使われたと考えられています。

当館ではこのほかにもさまざまな石器を展示しております。ぜひ足をお運びいただき、さまざまな石器の違いをご覧ください。



▲ 彫刻刀形石器

▲ ナイフ形石器

▲ エンドスクレイパー